

令和五年度鹿屋体育大学入学式 学長告辞

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。また、本日まで、ご子息、ご息女を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかった、保護者の方々をはじめ、関係各位の皆様方に心からお祝い申し上げます。

昨年に引き続き、令和五年度入学式も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小して開催することとしました。新入生をはじめ、参加する皆様の健康、安全を第一に考えた結論であることをご理解ください。

鹿屋体育大学は、国立唯一の体育大学として、令和三年度に設立四十周年を迎えました。

そして、令和四年度には、未来に向けた鹿屋体育大学の挑戦として、西暦二〇五〇年をターゲットイヤーとする長期ビジョン NIFS NEXT30 を策定しました。

NIFS NEXT30 では、本学が将来にわたり養成を目指す人材像として A.C.E. Kanoya【活気ある、独創的な、精鋭】をスローガンに掲げ、「先導的かつ即戦力となる人材」の育成を基盤に、「スポーツ界のオピニオンリーダー」および「国際大会で活躍するアスリート」の輩出を目指す。

標としています。

新入生の皆さんは、本学での学びを通して叶えたい夢を胸に秘め、今この場に臨んでいることと思います。そこで、本学での学びをスタートするにあたり、皆さんに改めて強調しておきたい点が一つあります。それは、初回の教務オリエンテーションの内容とも関係しますが、どのようなビジョンをもって、本学での四年間を過ごすのか？ということです。

ここでいうビジョンとは、君たち一人一人が持つ夢とその実現に向けた努力によって創り出されるであろう、将来のあるべき姿あるいは未来像を意味します。

ビジョンは不確実な夢の形とその実現に向けたアプローチを、よりリアルなイメージとして描く必要があります。

たとえば体育教師になる、という夢を持っているとします。この場合に、「体育教師になりたい」ということだけであれば、それは単なる希望あるいは目標でしかありません。体育教師になるという夢の実現につながるビジョンを描くためには、どのような教師になりたいのか、また教え子と共に何を達成したいのか、といった自分自身が目指す教師像を、まず明確にする必要があります。そして、大学での一年生から

四年生までの学びにおいて、どのような科目を受講し、いかなる能力を身につけていくのかを、明かにすることが求められます。すなわち、夢の実現につながるビジョンをもつためには、四年後に叶えたい姿だけではなく、それに至るまでのプロセスも意志のある将来の見通しとして描かなければなりません。それは、めざすものがトップアスリートやスポーツ科学の研究者、あるいはスポーツDXを駆使するデータアナリストであっても同じです。

一方で、今、皆さんが思い描く将来の夢や希望は、いわば皆さんの前に立ちはだかる壁であり、越えねばならない山でもあるのです。そして、皆さん一人一人が思い描くビジョンは、それらに対する、自分自身の覚悟を示す挑戦状なのです。新入生の皆さんは、是非、自分自身の夢とその実現に向けた確かなビジョンを掲げ、本学でのスポーツや武道の実践と学びに取り組んでください。そして、自分自身の可能性を信じ、決してあきらめない。常に強い気持ちを持ち、夢の実現に向けたチャレンジを続けてください。そうすればきっと壁を、そして山を乗り越え、その先に、これまで経験したことのない景色をみることができるでしょう。

ここ大隅の地は、皆さんがこれからの大学生活を送るうえで、基盤

となる場所です。鹿屋市を中心とする大隅の皆様方は、学生諸君を温かく迎え、本学の教育および研究をご支援してくださいます。皆さんにとって、大隅の地が第二の故郷と呼べる場所になるよう、日々充実した大学生活を送ってください。また今年の十月には、燃ゆる感動がごしま国体・かごしま大会が開催され、ここ鹿屋市では、五つの競技が実施されます。かごしま国体・かごしま大会の成功に向け、新入生のみならず、是非大会を盛り上げていただきたいと思います。

以上、新入生の皆さんへの激励と期待を述べて令和五年度入学式の告辞とします。

令和五年四月五日

国立大学法人 鹿屋体育大学長

金久博昭